

今回の留学で学び、感じたこと

倉片綾子 Ayako Kurakata

はじめに Introduction

今回私は、2月1日から19日までオーストラリア・クィーンズランド州のサザンクロス大学に埼玉親善大使として留学させていただきました。私は、これまでの親善大使の中では恐らく異例で、獣医学部 獣医保健看護学科に在籍しています。留学生の多くは国際関係を専攻しているので、現地の人をはじめ多くの方が私の専攻を聞いて驚いていました。

私が埼玉県・クィーンズランド州スカラシップに応募した理由は、将来海外（特にオーストラリア）で野生動物を診られる病院で働きたいと考えていて、学生の時に現地の生活に触れておきたいと思ったからです。先ほども述べたように、私は獣医保健看護学科を専攻しており、卒業後は動物看護師として動物病院に勤務する予定です。このような学科のため、動物は大好きで、特に野生動物にはとても興味を持っています。今回のプロジェクトの前にもオーストラリアやケニアに野生動物のスタディーツアーで訪れたことはありましたが、語学を学びに行くということはなかったため自分にプラスになると思い応募させていただきました。

私は今回の留学の前にいくつか自分で目標を立てておきました。

- 1: 埼玉親善大使として責任を持って埼玉県・日本について海外の人に伝える
- 2: 同じ年代の海外の友達をたくさん作りコミュニケーションをとる
- 3: 海外からみた日本はどのようなものなのかを学ぶ
- 4: 自分の専門分野である、動物や環境について日本との違いをみる

以上の4点の目標を掲げて今回のプロジェクトに参加させていただきました。

サザンクロス大学 Southern Cross University

大学はゴールドコースト空港の真隣で、帰国の日は大学に寄ってから空港に向かうことが出来るほどの近さでした。サザンクロス大学の語学学校には、日本人の他に台湾・中国・タイとアジアから来た留学生がいました。私が訪れた期間は、たまたま日本人の留学生が多い期間だったようで想像していた語学学校とは異なり驚きましたが、授業はもちろん英語ですし、海外の留学生とも英語を通してコミュニケーションが取れたことが嬉しかったです。初めての留学で最初は緊張してどうなることやらと思いましたが、この短期間で充実した生活を送れたのは、間違いなくここでよい仲間に出会えたからだと思っています。今でも戻りたいと思うくらい幸せな時間でした。



オーストラリアと日本の違い Different lifestyle between Australia and Japan

【バスの乗り方】 To take in a bus

留学期間中、何度もオーストラリアと日本の生活の違いに驚かされました。まずはバスの乗り方です。皆さんこれまでに一度はバスを利用したことがあると思いますが、日本ではバスに乗るにはバス停で待っていればバスが来て乗降できます。待っていればバスが来て止まってくれますよね？しかしオーストラリアのバスは待っているだけではバスに乗ることができません。何が違うかという、乗りたいのであればドライバーに向かって手を挙げて「止まって」という意思を見せなければならないのです。いくらバス停の横で「私乗ります」と目で訴えていたとしても、ドライバーは私をじっと見たまま通り過ぎていってしまったのです。なぜそのようなことになるのかを私は知らなかったため、オーストラリア初日はバスを一本のがし、現地の方がバスを止めてくれました。また、バスの中でも日本のバスとは全く異なり、常に気を張っていないといけません。なぜだと思いますか？日本のバスのように「次は〇〇」というアナウンスが一切ないからです。そのため乗客は皆、外の景色と自分の感覚で停車ボタンを押してバスを停車させます。このようなスタイルに慣れていない私は片手に携帯でGPSを起動させながら、ドライバーに「このバス停でおりたい」と伝えてから乗車していました。オーストラリアのバスは、少しスリルのあるバスです。



【生活習慣】 Lifestyle

オーストラリアの人々は本当に早寝早起きです。カフェの开店時間がそのライフスタイルを表しているように、たいていのカフェは6:00には开店し、閉店は遅くても15:00なのです。また、海外の人にはよくあることかもしれませんが健康への意識が日本人よりもとても強いように感じました。日本ではご高齢になると腰が曲がってしまったり、背骨が曲がってしまったりというイメージを持つ人は少なくないと思いますが、オーストラリアではご高齢で腰が曲がっている方に出会った記憶がありません。学校が海の近くだったため、帰りは海沿いを通って帰っていたのですが、すれ違う人は皆トレーニングウェアを着てランニングやウォーキングを行っていたり、犬の散歩をしたりしていました。普段の生活に運動が自然と取り入れられているとても素敵な生活習慣だと思いました。

また、オーストラリアで美味しかった物の1つにアサイがあります。オーストラリアではとてもポピュラーな食べ物で、道を歩いていると「アサイあります！」というような旗が立

っている光景をよく見ました。アサイボールは皆さんにもぜひ食べていただきたいです。私は今回の滞在で5回は食べているほどで、飽きずにいくらでも食べられるオーガニックフードです。フルーツたっぷりでお腹も体も癒されるひと皿でした。

【夜は危険なオーストラリア】

日本では日が暮れた夜でも男女関係なく外にいることは当たり前ですし、不安に感じることはあまりないと思いますが、オーストラリアでは全く違いました。私の場合は、18:00 過ぎても帰宅してないとホストマザーから連絡がきて、「あや、大丈夫？どこにいるの？」と心配してくれました。当時私はバスに乗っていたためその旨を伝えると、「最寄りのバス停で降りてまって迎えに行くから」といわれホストマザーに迎えに来てもらいました。その後彼女から話を聞いたところ、基本的にオーストラリアは国土が広いこともあり車社会であるため夜歩くことはないということ、また他の国同様で夜に女性が1人で歩くなんてもっての他だそうです。過去にホストファミリーの住んでいる近くで女性が襲われたこともあり、余計に心配して連絡をしてくれたのです。その日から私は帰宅が遅くなるとわかった日はタクシーを使用して身の安全を確保しました。

日本はよく安心な国と言われていますが、今回はそれを実感できました。

野生動物 Wildfire in Australia

オーストラリアにはコアラやカンガルーといったこれぞオーストラリアといった動物の他にも木登りカンガルーやカモノハシといったとてもユニークな動物も多数生息しています。

野生動物というと猿や鹿などを思い浮かべますが、オーストラリアではコアラも野生動物です。私が将来オーストラリアで働きたいと考えている理由として、野生動物を国の財産としている考えに魅力を感じたということが挙げられます。現地の人に「オーストラリアは国がすべての野生動物を保護しているなんて素敵なことだ」と伝えた際に返ってきた言葉は「確かにそうだね、でもコアラやカンガルーって珍しいし可愛いからよい観光の資源なんだ。だから国の利益のために守っているんだよ」と言われました。衝撃を受けましたが、これが現実だと感じました。何をすることも利益が必要であることを実感した瞬間でした。ですが、どんな理由であれ野生動物を保護しているのにはわかりありません。オーストラリアでは動物園の展示にも力を入れています。現在日本の動物園で問題視されている環境エンリッチメント（動物の本来の能力を引き出すため、その動物が日常的に行う動作や、頭を使って行動する環境づくり）に気を付けていたり、ありのままの生態系をみせる動物園も存在しています。例えば David fleay wildlife park では今述べた、生態系展示を行っています。ワニが飼育されているエリア内に鳥や哺乳類なども一緒に飼育されており、私は見る事が出来ませんが実際にワニが中にいる動物を食べることも少なくないそうです。動物園の目的のひとつである「教育」に大きく影響を与えるものであると私は思いました。

環境・自然 environment and nature

オーストラリアはとても自然が豊かです。何よりも海のない埼玉県に住んでいる私からは、

徒歩でビーチに行けることがとても幸せでした。下に写真を載せましたが、無加工の一眼レフで撮った写真です。とっても青く澄んでいると思いませんか？これぞビーチという感じがすね。青い空にエメラルドグリーンの海を眺められたオーストラリア生活は幸せいっぱいでした。先程述べたように学校から帰る際は海沿いを歩いて帰っていたのでオーストラリアの海を堪能させていただきました。海はもちろんですが、星もすごく綺麗です。ホストファミリーの家から毎晩曇っていない限り見ることが出来ましたし、特に印象的だったのは夜中高速から見た夜空です。信じられないくらいの星で、まるでプラネタリウムにいるようでした。一眼レフで収める技術が私になかったことを大変後悔してしまうほど本当に美しい星空でした。星がしっかり見えるのは外が暗いからだと思います。オーストラリアの夜は 19:00 になると暗く人も歩いていないので日本でいう 23:00 ごろに相当します。街灯はありますが微々たるものなので、余計に星が鮮明に見ることができるのだと思います。日本も掲示板の光を消せるとベストですが、光量を抑えれば星は都心でもしっかり見れるのではないのでしょうか？



おわりに At the end

グローバル化も進み海外の多くの方が日本を訪れたり、働くことが当たり前になってきました。「大抵の日本人は日本語しか話せない」と聞いたことがあります。来年に控えた東京オリンピックでは、世界中の人が来日します。多くの方が道案内などの場面に遭遇する可能性があるでしょう。そんな中、何も話せないのでは話になりません。完璧に英語を話して欲しいと言っているわけではありません。もちろん私も、毎度毎度たどたどしい英語と身振り手振りで相手に自分の意思を伝えようとしてきましたから。「英語を聞くだけで嫌になっちゃうよ」なんて言わずに、何か聞かれたり、困っている人を見かけたら助けてあげてください。やらないと何にも始まりません。私が最後にお伝えしたいのは、英語やほかの言語を恐れないで欲しいということです。私の夢への挑戦もまだ始まったばかりです。

今回、埼玉県の姉妹州であるクイーンズランド州に留学する、埼玉親善大使に選抜していただき本当にありがとうございました。私の夢であるオーストラリアで野生動物の動物看護師になるためにこれからも切磋琢磨していきます。

